

## サービスマーケティングの活動を振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 長谷田 裕士

活動先：NPO 法人 絆

クラス：村上 徹也 先生

私は、今回サービスマーケティングの活動で NPO 法人絆に行って活動させていただいた。4月の時点では、まだ活動先が決まっていただけで、具体的にどんなことをしていくのかは全く決まっていなかった。6月に入り活動先の方に学校に来ていただいて、夏休みの6日間でどのような事をするのか具体的に話し合った。私たちは、去年の先輩が開催した絆祭りを今年も担当させてもらいたいと提案した。活動先の方は快く提案を承諾してくれて、この日から絆祭りの企画を考える事になった。私たちは、今回の祭りで利用者さんや地域の人に楽しんでもらい絆を深められるような活動をする事を目標にして、この目標が達成出来る様な企画作りをしていった。そして、7月の事前訪問で企画について大まかな話し合いをして、夏休みの活動を迎える事になった。

活動本番の1日目は、夏祭りのポスターとチラシ作りを行った。ポスターは去年の物を参考にし、ワードを使って文章を作成しイラスト集を参考にしながら絵を描きスキャナーを使用しながらポスターを仕上げた。

2日目は招待券の作成を行った。この招待券はチラシと一緒に配布するもので、本来であれば1日目の段階で招待券まで作り終えて、2日目はチラシと招待券の配布からスタートする予定だったので、かなり焦りながら作業を行った。午後はNPOの近くの家の方々にチラシを配りに回った。どの家の方も受け取ってくれたが、警戒している家の方もいて、まだNPOがよく認知されていないなと感じた。チラシの配布が終わってからは、ゲーム作りに必要な物や花火の買い出しに行った。スムーズに買い出しができたので活動時間内に活動を終える事ができた。

3日目は、お祭りの出店でやるゲームコーナー作りをした。ゲーム作りに必要な材料は、事前に活動先の方々が集めてくださっていたのでスムーズに作業に入ることができた。ゲームは的あてやボーリング、景品引きを考えていたので、的あての球を作ったり、ボーリングのピンやレーンを作った。景品引きは、袋に景品をつめ紐を付けるという単純な作業だったが、数が多かったため作業はかなり大変だった。しかし職員の方々が一緒に手伝ってくれたり利用者の方々が応援してくれて、頑張っって作業を進める事ができた。

4日目は、引き続きゲーム作りを行った。3日目までの進行状況がよくなく、職員の方に手伝ってもらいながらなんとか完成させることができた。ゲーム作りの進行が遅れた原因は、ゲームのためにどのようなものを作るのか明確になっていなかったということがあったので、しっかりと計画を立てなければいけないと反省した。

5日目は、祭りの前日の活動であった。しかしゲームは未完成、当日使う金券も出来上がっていない、さらに祭りは夜にやるのに照明も用意しなければいけないことも忘れており、大慌てで作業を開始した。午後からはゲームコーナーのペットボトルボーリングなどの最終確認をし、職員の方々とテントの組み立てを行った。

6日目は、いよいよ祭りの当日である、5時からの開催までにゲームコーナーの修正や

仕上げ、確認を行い、ホットケーキ作りの材料準備に取り組んだ。多くの方々に手伝ってもらったが思ったよりも時間がかかってしまい、改めてもっと余裕を持って当日を迎えられるように計画や事前準備をしておかなければいけないと感じた。5時からはお祭りが始まり、多くのお客さんが来てくれた。特に子どもたちは面白がってゲームを何回もしてくれたりして、本当に楽しそうに遊んでくれた。しかしゲームを少し難しく作り過ぎてしまったりして、あまり子ども視線で考えることができていなかったと反省点もあった。お祭りは、食べ物は完売しゲームコーナーも人がたくさん来てくれて大盛況だった。打ち上げ花火もうまくいき、無事お祭りを終える事ができた。6日間の活動は、様々な人々とつながりを深める事のできた活動だったと思う。

今回 NPO 法人絆で活動して、何かの企画を考え準備しやり遂げる事はとても大変でエネルギーのいる事だと実感し、多くの人の助けや支えがなければ達成することができないということを感じた。また、事前準備や計画の大切さが身にしみてわかった。活動の初日から行きあたりばったりの活動で、必要な材料は職員の方々に用意してもらい、作業が思うように進まず時間がない時は、利用者の方たちに手伝ってもらうなどいろいろな面で助けてもらった。今後、何か企画することがあれば、今回の経験を生かして先を見越して準備や計画を立てて余裕を持って行動できるように考えて企画を立てたいと思う。

さらに今回の活動を通して感じたことは、NPO の地域でのまだ認知度が低いと感じた。それは今回お祭りを開催することを近くの家にあいさつに行った時に、利用者の方がいる家では明るく接してくれていたのに対して、NPO にあまり関わりのない家では警戒されているような印象があったからである。今回実施したお祭りのように誰でも参加できるような活動をして、もっと地域とのつながりを深めていけるような活動ができたらいいと感じた。

これからの福祉には、地域どうしのつながりや地域の中での福祉が大切になってくると思う。今までは行政が中心になって福祉をしてきたが、近年では多様化するニーズに対応ができなくなり、地域ごとのニーズに対応するため民間や NPO の力が必要になってきている。特に NPO は、利益を目的としない民間非営利組織なので、費用が払えなく民間のサービスを受けづらいという人も NPO ならそのような人も支える事ができる。しかし、今回の夏の活動で分かったように、NPO の認知度はまだまだ低いものである。これからのように NPO の認知度を高めるかが今後の課題になってくると思う。今回サービ斯拉ーニングでは、今までないような経験をさせてもらうことができ、また活動先の方々には本当にいろいろと助けられて感謝してもしきれない、今回の活動を次の活動に活かして、これからの学びをより深めていきたいと思う。